

IV-402

リゾート地区整備構想の分類に関する一考察

住宅・都市整備公団 正員 ○山本邦治

大阪市立大学 工学部 正員 西村 昂

大阪市立大学 工学部 正員 日野泰雄

1. はじめに

1988年のリゾート法(総合保養地域整備法)施行以来、すでに40件のリゾート整備構想(総合保養地域の整備に関する基本構想;以下「基本構想」と呼ぶ)が承認されているが、バブル経済の崩壊に続く不況や環境保護気運の高まりから、その整備ははかどっていないようである。本稿では、全国のリゾート地区で計画されている施設整備の内容をマクロ的に分析し、リゾート整備構想の特徴について若干の考察を行った結果を報告したい。

2. 重点整備地区の特色のカテゴリー化

「基本構想」では、良好な自然条件を備え、複数の市町村からなる15万ha程度の整備対象地域の中に、3000ha以下の重点整備地区を数カ所連接させて設けることとなっている。本稿では「基本構想」資料の入手できた38道府県の286地区を対象に、「重点整備地区の特色、性格及び機能、整備方針」の説明から、地区の立地やリゾート活動に伴う施設を表すキーワードを抽出して、表-1のように11アイテム、55カテゴリーに整理した。施設にはゴルフ場やマリナが多いことがわかる。

3. 重点整備地区の分類の試み

次に、各地区がこれらのカテゴリーに該当するかどうかを1と0のマトリクスに表し、数量化理論Ⅲ類を用いて、各カテゴリーと各地区の得点を求め、表-2の上位3つの固有値を持つ得点を順に第1～3軸と名付けた。各軸の得点の大小でカテゴリーを表-3のように並べ替え、各軸の得点に集約された意味を推定すると、第1軸は、(+)側にスキー、登山、山岳・高原、(-)側に海岸、マリナ、

海中公園などが並ぶことから、山岳型・海浜型を意味していると考えられる。第2、3軸は、カテゴリーの配列からは意味がわかりにくいので、図-1、図-2の散布図で検討する。アイテム「みる」に着目した図-1では、歴史的施設が第2軸の(+)側、近代的施設が(-)側にあり、またこれらの拠点的な施設はともに第3軸の(-)側にある一方、移動を伴う施設が(+)側にある。アイテム「うごく」に着目した図-2では、季節スポーツが第2軸の(+)側、通年スポーツが(-)側にあり、第3軸でも図-1と同様のことが言える。従って第2軸は、既存施設や自然を活用した既存資源活用型と人工施設型、また第3軸は周遊基地型と拠点滞在型を意味すると考えられる。これらの軸の意味から、図-3の地区の散布図では、第1軸の0に近づくほど、即ち第1軸の意味が弱まるほど、第2軸の(-)側の人工施設型の地区が多くなることが表されている。図-4の第3-2軸では、両軸とも(-)側は散らばりが少なく、人工施設型かつ拠点滞在型の地区は、多様性に乏しいといえる。

4. 地方別タイプ別重点整備地区数

各地区は、3つの分類軸で正負どちらの得点を持つかで8タイプに分類できる。各タイプの地区数は図-5に示され、その差は大きい。さらに地域別の内訳には偏りが見られ、地域によっては画一的な地区

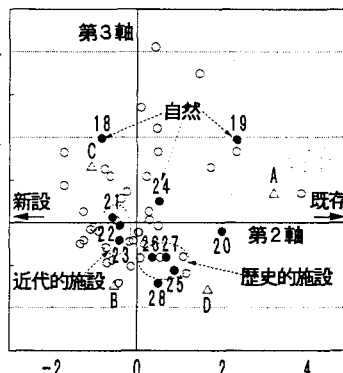


図-1 カテゴリー-散布図

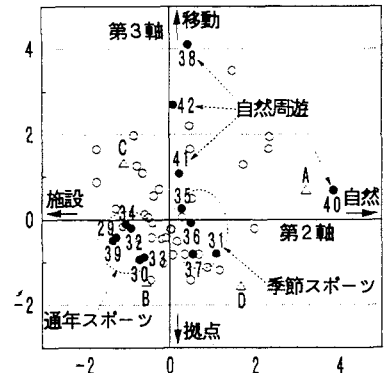


図-2 カテゴリー-散布図

表-1 重点整備地区の特色

アイテム	ロード	カテゴリー(地区の立地、施設)	数	割合
北緯	A	38度以上	38	13
	B	36~38度	61	21
	C	34~36度	123	43
	D	34度以下	64	22
地形	1	山岳・高原	81	28
	2	丘陵	58	20
	3	湖沼・ダム湖	45	16
	4	河川・溪谷	43	15
	5	海岸	115	40
	6	特殊地形	22	8
やすむ	7	温泉・湯治場	87	30
	8	健康回復・医療・社会福祉施設・養老	89	31
	9	森林浴	13	5
とまる	10	従来型宿泊施設(ホテル・旅館・民宿・ペンション)	125	44
	11	滞在型宿泊施設(コドミティ・リゾートマンション・別荘)	118	41
	12	屋外宿泊施設(キャンプ・オートキャンプ場・バンガロー)	74	26
	13	飲食店(特産物・郷土料理)	25	9
たべる	14	屋外食事施設(バーベキュー)	6	2
	15	特産食品加工・試食施設	11	4
	16	都市型ショッピング施設	43	15
かう	17	観光市場	20	7
	18	展望施設	21	7
みる	19	海中公園・遊覧船・潜水船	18	6
	20	トワイライト	8	3
	21	アミューズメントパーク	46	16
	22	動植物園・花畑・水族館	49	17
	23	美術・博物・資料館	73	26
	24	自然観察施設	47	16
	25	既成集落(農漁村)・町並み	70	24
	26	神社仏閣・伝統文化財・史跡	55	19
	27	行事・祭典・イベント	33	12
	28	外国イメージ	18	6
	29	フェス	64	22
	30	ゴルフ	103	36
	31	スキー	73	26
	32	運動・競技場・公園・広場・ゲートボール・サッカー・野球	77	27
	33	他の陸上スポーツ施設(乗馬・アイスホッケー・チェス・グラウンド・スケート・アイスホッケー・センター)	55	19
	34	屋内体育施設(アリーナ・フィットネス・ジム・プール・アクアトーム)	35	12
	35	海・湖・水浴場・親水空間	57	20
	36	ボート・カヌー・サファリ・マリナ	83	29
	37	グライダー・パラセーリング・気球	14	5
うごく	38	カー	6	2
	39	モトクロス・オートバイ・スキー・モーター	6	2
	40	登山・ワンダーフォーゲル	12	4
	41	ハイキング・サイクリング・オリエンテーリング・クロスカントリー	22	8
	42	遊歩道・自然散策路・トリムコース	25	9
	43	観光果樹・農園・山菜園	57	20
	44	観光牧場	33	12
	45	釣り場・観光漁場	41	14
	46	会議・集会所(文化会館・コパシオンセンター・イベントホール)	73	26
	47	教育・研修施設(林間学校・セミナー・ワークショップ)	68	24
	48	遊場・精神修養施設	7	2
	49	伝統工芸体験施設	27	9
つくる	50	創作活動施設(アトリエ・工房)	42	15
	51	先端技術産業・研究施設	12	4

注)「割合」は、全286地区に該当地区数の占める割合(%)

表-2 各軸の固有値

	固有値
第1軸	0.352
第2軸	0.197
第3軸	0.182

表-3 カテゴリー配列

	1軸	2軸	3軸
(+)	48	48	48
	14	40	38
↑	31	A	14
	40	19	42
	1	6	45
	A	20	18
	15	3	19
	B	D	6
	9	14	4
	39	1	2
	44	31	C
	33	25	3
	3	27	43
	42	37	9
	4	24	41
	38	36	17
	41	28	12
	24	4	40
	7	45	A
	29	38	47
	34	26	24
	12	5	44
	8	35	35
	2	41	21
	43	13	5
	32	42	8
	30	15	22
	23	7	36
	47	46	34
	50	10	50
	46	16	32
	10	11	20
	37	12	7
	16	47	46
	49	22	29
	27	23	23
	28	49	10
	22	8	11
	26	B	39
	18	21	13
	11	33	51
	C	9	31
	6	30	37
	13	51	27
	25	43	26
	45	18	15
	17	32	33
	21	34	30
	51	C	16
	35	50	25
	20	29	1
	19	44	28
	36	39	49
	5	17	B
(-)	D	2	D

注)表-1のコードで記述

①リゾート地区の立地や施設構成から、山間型と海浜型、既存資源活用型と人工施設型、周遊基地型と拠点滞在型の分類基準を得た。

②3つの分類基準の組み合わせで、リゾート地区に8つのタイプが考えられ、各タイプの地区数には大きな差があることがわかった。

③また地域別タイプ別地区

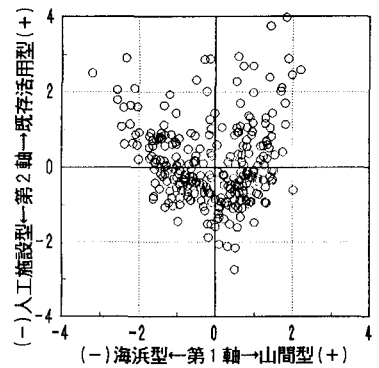


図-3 地区散布図

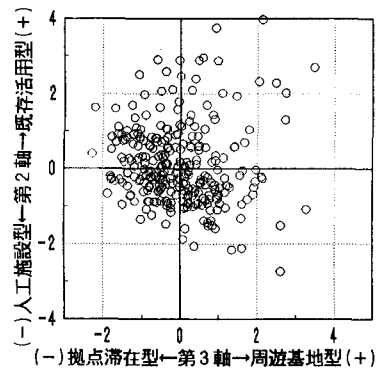


図-4 地区散布図

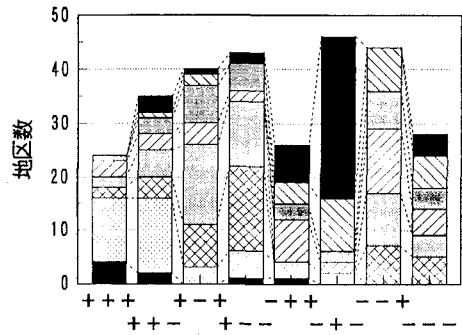


図-5 地域別タイプ別地区数

数の構成に偏りが見られ、地域の特色が反映されていると見られる反面、地区のタイプ別構成は多様性に欠けることがわかった。

最後に、資料をご提供いただいた各都道府県の担当者の方々に記して感謝の意を表する。

<参考文献>(1)山本、西村、日野:リゾート地域整備のための交通需要予測手法に関する基礎的研究, 大阪市立大学修士論文, 1994
(2)山本、西村、日野:我が国のリゾート地域整備計画に関する基礎的研究, 土木学会第48回年次講演概要集, p. 506~507, 1993

構成となっているようである。

4. まとめ

本稿の成果として以下のことが言える。